

第2回 高1英語

総評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の文脈を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認しておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

ナチュラルな読み上げスピードによる放送であった。放送前に設問に目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすかっただろう。また、特に計算が必要な設問は適宜メモを取りながら聞くこと。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

A

英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあり、英文を聞きながらの素早い判断が求められる。放送された英文自体は難解なものではないが、フィルの日々のスケジュールや、ハンナからのアドバイスなどについて正確に把握する必要があった。

B

Part 1

(2) 何と何の difference を問われているのかに注意。

(4) 設問指示 not を見落とさないこと。

Part 2

スペルミスの減点は各-1点であるが、単語の抜けや聞き間違いは配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、積極的に活用したい。

(1) 過去形の動詞に続く that 節の中に空所があることに注意。

(2) 前置詞 at の後の動詞の形に注意。

2 文法・語法

文法事項は、形容詞、関係詞、動詞、前置詞、副詞の用法、倒置など広い範囲を含めた。中には、イディオムになっているものもある。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて適切な英文を作り、表現する力を問うていた。

A 整序英作文

採点は、英文全体として意味を成さない解答は配点分の減点とした。

(1) 無生物主語構文が使用できることを判断したい。また、steady は本問では収入を修飾する「安定した」という意味だが、性格や態度、目標などが「しっかりしている」という意味でも用いられる。

(2) (get + A + 過去分詞) で「Aを～の状態にしよう」という意味となる。この語順を正しく書いていない答案が多かった。しっかり覚えておくこと。

(3) All you have to do is ～, はよく使う表現なので、覚えておくことよい。

(4) what becomes of ～で「～がどうなるのか」という意味。of の位置を誤っている答案が多かったため、注意。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 「郷に入っては郷に従え」の意味を説明するには「(あなたは)その土地の習慣に従うべきである」というポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが文脈的に前後が繋がらない場合などは-2点、ポイントを押さえられていない場合は-4点とした。

(2) ①着物を着たこと、②茶会に行ったことの2点をポイントとし、どちらかが抜けていたり前後の

文脈が繋がらない場合は-3点とした。スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないう、書き終えたら必ず見直すこと。

(3) イラストから読み取れる状況について正しく説明できているかどうかポイントであった。イラストの一部分の説明に終始しているものは、説明不足として-3点とした。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

(1) ○最近、自転車通勤をしている人をよく見かけますが ……4点

○健康に気を遣う人が増えている証でしょう ……4点

「～証でしょう」を訳出していなかった答案が散見された。英訳の際は、日本文のニュアンスをすべて訳出できているか最後の見直しが重要。

(2) ○慣れないことをする前に ……4点
○自分の年齢とよく相談すべきだったので ……4点

「～と相談する」を直訳している答案が見られた。「～を考慮する」くらいに読み替えるなど、表面的な意味以上に日本文の意図に十分注意を払うこと。

4 長文読解

科学好きの男の子がハンバーガー店で女性が手話で話しているのを目にしたことをきっかけに、科学発表会での企画を思いつき、手話翻訳機を発明する話。発明にいたるまでの協力者についての情報や発明の具体的な内容も盛り込まれている。

主人公であるライアン・パターソンの発明に関して正しく把握することが大切である。設問で取り上げた下線部は内容理解において重要な箇所なので、復習の際は誤りの選択肢についてもよく読み、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。

(4) ②本文の説明に基づいて、「何を」「どうする」という内容を解答に含めること。match A with Bで「AをBに照合する」という意味なので、AとBの関係性を逆に取らないよう注意したい。

(5) 以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ If I can make an innovative device that could help people out ……4点

○ particularly people with disabilities ……2点

○ I'll feel as though I've made a difference

……3点

as though …で「あたかも…のように」の意。仮定の意味合いがまったく出せていない場合は減点対象とした。

5 長文読解

クジラの親子のやりとりをもとに展開される、シニカルかつ抽象度の高い話であった。まずは文章の流れに沿って、それぞれの発言を正確に理解することが大切である。復習の際は、ダミー選択肢についてもよく読んで、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。また、この文章の“The Great Whale’s Mistake”という題名についても、何が“mistake”であったのかを考えてみてほしい。

(3) 車が浜辺を走りながら、植物や鳥の巣を駄目にし、ゴミをまき散らしている様子が本文では述べられている。

(4) 誤答は a が多かったが、実際、母クジラと父クジラのどちらが厚い信仰心を持っていたかまでは言及されていない。

(5) b もまぎらわしかったが、クジラは人間に邪魔をされない場所を探していたとは述べられていないことに注意。